



ものづくりによって障害者の自立を支援する作業所で、バッグに色を付ける青年。理学療法士の合谷香織隊員が優しいまなざしで見守る

### 村の再建を誓う 女性たちと出会って

ス・ユニバーズ世界大会で2位に輝き、以来、ファッションモデルや報道リポーターとして幅広く活躍する知花くららさん。2007年からはWFP国連世界食糧計画のオフィシャルサポーターを務め、

08、09年には日本のODA(政府開発援助)紹介番組のナビゲーターとして、アフリカやアジアの人々の暮らしや国際協力の現場の様子などを伝えてきた。

さらに2010年から「なんとかなしなプロジェクト」のメンバーに。そして8月、この活動の一環として、09年に内戦が終結したスリランカを訪問した。「インド洋の真珠」とも称され、その豊かな文化や自然が訪れる者を魅了する同国。しかしその一方で、26年に及ぶ内戦の影響で今も多くの人々の心に深い傷跡が残り、一部の地域では生活の再建もままならない状況だ。

「この検問所で軍のチェックを受けます」

同行のJICA関係者がその声を掛けると、知花さんの表情に一瞬の緊張が走った。車は、内戦時代に最も激しい戦闘が繰り返された地域に入っていた。今も治安維持のための

厳戒態勢が敷かれている。

一行が訪れたマナー県には、国内各地で避難生活をしてきた多くの人々が帰還していた。JICAはここで、荒廃した村を帰還民が自らの力で復興させ、生活を再建できるように、住民による復興計画の作成や農業・漁業組合の拠点整備、灌漑施設の修復などを支援している。

JICA専門家とともに女性グループの会合に参加した知花さん。「日本人の専門家の方が住民の人たちと一緒にプロジェクトを進めていくのは、とても良いこと。夫や息子を失いながらも、それを乗り越え、村や家族を守ろうと行動する女性のたくましさは頭が下がる思いでした」。

### 国際協力は 「知る」ことから始まる

青い海に架かった新しい一本の橋。日本の無償資金協力で2010年3月に開通した「マナー橋」だ。県の

## 特別レポート

文=大塚 卓哉 (JICAスリランカ事務所)

# 知花くららさん 世界を知る旅

in スリランカ

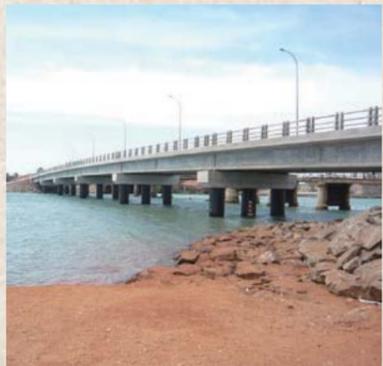
私の経験を通じて、少しでも多くの人に国際協力に関心を持ってもらえたらー。そんな思いを胸に、アフリカやアジアを巡る知花くららさん。2010年8月には、長年の内戦を終え、戦後復興に取り組みつつ、中長期的な発展を目指すスリランカを訪ねた。



「いよいよ給食!」。食器を持って並ぶ子どもたちとバチリ ©WFP

行政や経済の中心地であるマナー島とスリランカ本島を結ぶ唯一の交通インフラであり、橋の下には上下水道の配水・排水管も敷設されている。「マナー島の生活をまさにこの橋が支えているんですね。インフラ整備は、人々の「生命線」を確保することなんだと実感できました」。にぎわうマナー島の市場を後にした知花さんが、橋を渡りながら言う。

続いて訪ねたのは、青年海外協力隊が活動するアヌラダプラ県。4人の女性隊員による、障害者へのリハビリ巡回指導に同行した。額に汗を流し、障害者やその家族に語り掛ける彼女らの奮闘ぶりに、知花さんは「地元の人々との考え方の違いや言葉の壁を乗り越え、頑張っている女性隊員たちは素敵。やっぱり女性性はた



マナー橋。橋の下に上下水道網も完備

くましい!」と感心した様子だった。「長く紛争が続いたのにみんな穏やかで温かく、この国が大好きになりました。以前の暮らしを取り戻すには時間がかかるでしょうが、効果的な援助によって生活が改善され、人々が笑顔になる状況がもつと増えたらうれしい」。きつとその視線の先に、

平和を喜ぶマナー県の人々や元気に生活するアヌラダプラ県の障害者たちの笑顔を思い浮かべていたのだろう。

「人々がどんなふう暮らして、何に苦しんでいるのか、実際に現地で見聞きすることで分かるものってすごく多いんです」

途上国を訪れる機会が増え、そう感じ始めた知花さん。「国際協力の最初の一步は、知ること。WFPをはじめとする国際機関による支援やODAなどの援助の現場を見つめ、現状を伝えること、それが今の私にできる一歩。耳を傾けていただき、さまざまな課題について一緒に考えるきっかけになればうれしいです」。知花さんの世界を、知る。旅は、まだまだ続きそう。

### 子どもたちと一緒に豆カレー ~WFPの食糧支援先で~

WFPの支援現場の視察は、ザンビア、フィリピンに続き今回が3カ国目となった知花さん。北部キリノッチ地域では、内戦が終わっても地雷除去の遅れなどで故郷に戻れず、WFPが配給する食糧で命をつないでいる人々を訪ねた。そこでは、袋からこぼれてしまった食糧を一粒一粒拾い集めているおじいさんの姿を目にした。

「一粒も無駄にできない彼らの生活の厳しさを改めて痛感しました」。一方マナー県では、爆撃によって破壊された校舎が最近再建されたばかりだという、ヴァダカダラ学校を訪問。知花さんは子どもたちと一緒に床に座り、WFPの「学校給食プログラム」で提供されている食材を使った豆のカレーに「本当においしい!」と顔をほころばせていた。



©WFP



配られた豆は一粒も無駄にできない



女性たちは本当に元気!



いまだ残る戦争の傷跡

## Kurara's photos

~知花さんがレンズ越しに見たスリランカ~

※途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクト。実行委員会はJICA、NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、国連開発計画(UNDP)。